

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

- ① 学校名
- ② 大学等の設置者 ③ 設置形態
- ④ 所在地
- ⑤ 申請するプログラム名称
- ⑥ プログラムの開設年度 年度 ⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
- ⑧ 教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人
- ⑨ プログラムの授業を教えている教員数 人
- ⑩ 全学部・学科の入学定員 人
- ⑪ 全学部・学科の学生数(学年別) 総数 人
- | | | | |
|-----|--------------------------------------|-----|--------------------------------------|
| 1年次 | <input type="text" value="2,000"/> 人 | 2年次 | <input type="text" value="1,994"/> 人 |
| 3年次 | <input type="text" value="2,024"/> 人 | 4年次 | <input type="text" value="2,240"/> 人 |
| 5年次 | <input type="text" value="185"/> 人 | 6年次 | <input type="text" value="212"/> 人 |
- ⑫ プログラムの運営責任者
- (責任者名) (役職名)
- ⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
-
- (責任者名) (役職名)
- ⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)
-
- (責任者名) (役職名)
- ⑮ 申請する認定プログラム

連絡先

所属部署名	鹿児島大学学生部共通教育課	担当者名	大園 豊美代
E-mail	kyomuedu@kuas.kagoshima-u.ac.jp	電話番号	099-285-8892

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

全学必修科目「情報活用」(2単位)を修得すること。
 ※共同獣医学部については、山口大学との共同設置課程のため、同内容を「情報リテラシー演習」(必修:1単位)「情報セキュリティ・モラル」(必修:1単位)に分けて開講している。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
情報活用(情報リテラシー演習,情報セキュリティ・モラル)	2	○	全学開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
情報活用(情報リテラシー演習,情報セキュリティ・モラル)	2	○	全学開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
情報活用(情報リテラシー演習,情報セキュリティ・モラル)	2	○	全学開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
情報活用(情報リテラシー演習,情報セキュリティ・モラル)	2	○	全学開講	○	○						

⑦「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
情報活用(情報リテラシー演習,情報セキュリティ・モラル)	2	○	全学開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、「情報活用」(第13回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化、「情報活用」(第13回) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会、「情報活用」(第13回) ・複数技術を組み合わせたAIサービス、「情報活用」(第13回)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル、「情報活用」(第13回) ・AI最新技術の活用例、「情報活用」(第13回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・構造化データ、非構造化データ、「情報活用」(第13回) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)、「情報活用」(第13回) ・データのオープン化(オープンデータ)、「情報活用」(第13回)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)、「情報活用」(第13回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど、「情報活用」(第13回)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測, グルーピング, パターン発見, 最適化, シミュレーション・データ同化など, 「情報活用」(第15回) ・データ可視化: 複合グラフ, 2軸グラフ, 多次元の可視化, 関係性の可視化, 地図上の可視化, 挙動・軌跡の可視化, リアルタイム可視化, 「情報活用」(第15回)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化, データの取得・管理・加工, 探索的データ解析, データ解析と推論, 結果の共有・伝達, 課題解決に向けた提案), 「情報活用」(第13回) ・流通, 製造, 金融, サービス, インフラ, 公共, ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介, 「情報活用」(第13回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI, 個人情報, データ倫理, AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護, EU一般データ保護規則(GDPR), 忘れられる権利, オプトアウト, 「情報活用」(第3回) ・データ倫理: データのねつ造, 改ざん, 盗用, プライバシー保護, 「情報活用」(第3回) ・数理・データサイエンス① 情報倫理とセキュリティ, 「情報活用」(第3回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性, 完全性, 可用性, 「情報活用」(第3回) ・匿名加工情報, 暗号化, パスワード, 悪意ある情報搾取, 「情報活用」(第3回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介, 「情報活用」(第3回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的, 質的) ・代表値(平均値・中央値・最頻値)と散布度(分散, 標準偏差), 「情報活用」(第14回) ・分布(度数分布, ヒストグラム, 箱ひげ図), 「情報活用」(第14回) ・相関と因果(散布図, 相関係数, 回帰直線), 「情報活用」(第15回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データの表現(棒グラフ, 折れ線グラフ, 円グラフ, 散布図, レーダーチャート), 「情報活用」(第11回) ・データの比較(条件を揃えた比較, 処理の前後での比較), 「情報活用」(第11回) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク), 「情報活用」(第11回) ・優れたグラフ表現の紹介, 「情報活用」(第11回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和, 平均など 1次統計量の算出) ・データソート(並び替え, ランキング), 「情報活用」(第14回) ・データ解析ツール(表計算ソフト)を用いた分布図(散布図, ヒストグラム), 回帰直線, 「情報活用」(第15回) ・表形式のデータの取り扱い(csv), 「情報活用」(第10, 11, 12回)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<p>(1) 数理データサイエンスAIの技術によって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、そこから生み出される新たな価値を説明できる能力。</p> <p>(2) 膨大なデータの集積(ビックデータ)によって新たな雇用や産業分野が生じている現状を説明できる能力。</p> <p>(3) データの特徴を見出し、そこにある事象・背景・意味合いを説明できるとともに、その適切な分析手法を判断できる能力。</p>
--

⑪ プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<p>https://www.kagoshima-u.ac.jp/educenter/datascience.html</p>
--

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和2

年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
法文学部	410	1640	414	408	417	404									831	51%
教育学部	190	810	191	185	194	191									385	48%
理学部	185	740	193	190	198	178									391	53%
医学部医学科	110	648	110	108	109	108									219	34%
医学部保健学科	120	480	120	120	123	122									243	51%
歯学部	53	318	53	52	53	51									106	33%
工学部	440	1760	445	437	450	443									895	51%
農学部	205	820	214	211	225	221									439	54%
水産学部	140	560	145	142	153	148									298	53%
共同獣医学部	30	180	31	31	31	31									62	34%
合計	1883	7956	1,916	1,884	1,953	1,897	0	0	0	0	0	0	0	0	3,869	49%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

鹿児島大学共通教育センター運営委員会規則

② 体制の目的

鹿児島大学においては、全学生に共通に必要な基礎教育を行うために共通教育課程を設けている。その中で、「全学 情報科目分科会」については、データを活用し社会の課題を発見、解決できる人材を育成するための基盤となる科目「情報活用」の運営方針と協力体制の整備を目的として設置している。

また、受講生に対し高い教育効果を備え、かつ魅力ある情報サイエンス教育プログラムを提供するため、①具体的な企画・立案、②授業評価を基にした授業改善策の作成等を行う「数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進ワーキンググループ」が設置されている。

③ 具体的な構成員

数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進ワーキンググループ

共通教育センター 准教授 伊藤昌和 (座長)、全学情報科目分科会併任 (分科会長)
 共通教育センター 助教 大野裕史 (「情報活用」教育担当)、全学情報科目分科会併任
 共通教育センター 准教授 富山清升 (数理データサイエンスAI教育担当)、全学情報科目分科会併任
 共通教育センター 准教授 川端訓代 (「統計」教育担当)

全学 情報科目分科会

工学部委員 准教授 吉本 稔
 理学部委員 教授 新森 修一
 法文学部委員 准教授 吉田 明弘
 教育学部委員 准教授 石橋 愛架
 農学部委員 准教授 神田 英司
 水産学部委員 准教授 西 隆昭
 共同獣医学部委員 教授 白石 光也
 医学部委員 准教授 兒玉 慎平
 歯学部委員 准教授 三浦 裕仁
 情報基盤統括センター 助教 小田 謙太郎

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	49%	令和4年度予定	72%	令和5年度予定	96%
令和6年度予定	100%	令和7年度予定	100%	収容定員(名)	7,956

具体的な計画

本学では本教育プログラム科目「情報活用」の前身科目である「情報科学科目」の全学必修化を平成8年度に完了しており、これまで大学での情報教育に関して、多くの経験と実績を積み上げてきた。この科目は共通教育全体の改革を受けて平成28年度から「情報活用」科目として再整備された。そして、令和2年度からは数理データサイエンスAI教育に関する内容(情報、基礎統計、情報セキュリティー・倫理、等)が「情報活用」に組み込まれ、本教育プログラムが開設された。

一方学習支援の面では、平成29年度にクラウド型学習支援システム「manaba」(株式会社朝日ネット)が全学的に導入され、多くの授業科目において活発に運用されている。「情報活用」においても「manaba」を用いることで、動画コンテンツ等の教材配布や、履修・受講状況、学習成果の確認は場所と時間にとらわれることなく可能となっている。

数理データサイエンスAI教育の技術的根幹を成す基礎分野である統計学関連授業は一部の学科を除いた全学部で開講されており、特に理系学部では準必修科目となっている。また令和4年度からは文系学部も含めた全学部全学科で履修可能となっている。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

令和2年度から開始された教育プログラム科目「情報活用」は、文系学部・理系学部を問わず本学全1年生を対象とした必修科目である。授業運営方針は本学の全学部(9学部)及び二つのセンターから選出された委員により構成された「全学 情報科目分科会」において検討されており、各部局の専任教員が授業を担当するなど全学的な支援体制がすでに得られている。

また、授業内容によっては「数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進ワーキンググループ」が共通ビデオコンテンツを制作しており、文系学生を含む全学生が、数理データサイエンスAI教育に対する興味を切らすことなく履修することが可能である。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本学数理データサイエンスAI教育プログラム科目「情報活用」は鹿児島大学初年次における全学必修科目である。したがって受講に関しては、鹿児島大学の全学生が入学時に支給される「共通教育履修案内」に詳細に明記されており、数理データサイエンスAI教育プログラムの内容はホームページ上でも確認できるようになっている。

履修登録や修正についてもインターネットを用いて容易に可能である。履修登録の方法は、所属学部のオリエンテーションにおいて新入生に詳しく解説が行われ、高学年学生から成るティーチングアシスタントによるサポート体制も敷かれている。

さらに鹿児島大学では全学的にクラウド型学習支援システム「manaba」(以下、「manaba」という。)を導入しており、個々の履修内容の確認、履修に関する質問が容易に行われるようになっており細かな個別指導が可能である。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

数理データサイエンスAI教育プログラムのコア科目「情報活用」は1年生前期の必修科目である。このため入学時の各学部のオリエンテーション時に、きめの細かい履修登録指導がなされている。また、履修登録はインターネットを介して行えるシステムが全学的に構築されており、学生個人のパソコンやスマートフォンを利用して登録が可能である。さらに鹿児島大学ピアサポート制度により、学生どうしの修得に対するサポート体制も充実している。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学では「manaba」を全学的に運用している。当該システムを用いることで大学・自宅といたった場所や時間を選ばず、授業に関する連絡事項の周知や、参考となる動画コンテンツの視聴、課題の受け渡しと提出、質問・返答を行うことが可能である。もちろん、従来のオフィスアワーも受講生に周知されており、これを利用した対面での質問も可能である。一方、本学の全教員に対しては、定期的に「manaba」の使用講習会が催されており、個々の教員の授業科目における運用についても多くの実績がある。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p data-bbox="197 359 607 395">学内からの視点</p> <p data-bbox="241 614 595 683">プログラムの履修・修得状況</p> <p data-bbox="241 1134 371 1171">学修成果</p>	<p data-bbox="607 400 2080 576">全学の教務事務システムにより、本教育プログラムの履修・取得状況を確認することができ、さらに本学が導入している「manaba」の活用により、各受講者の講義出席状況や課題への取り組み状況を把握することができるようになっている。 このような基盤を踏まえ、単位の修得状況については、開講期である前期終了時に全学情報科目分科会において確認し、問題がある場合には学部と協力の上、次年度以降の改善を図っている。</p> <p data-bbox="607 903 2080 1110">「manaba」に備わっているミニテストやアンケート機能等を使うことによって、プログラム授業における内容理解度の把握が容易である。その結果を共通教育センターFD委員会と共有・分析することによって、より高い学習成果が得られる教育プログラムの構築に役立てる体制が構築されている。 このような体制を踏まえ、授業終了時に、授業で実施したミニテストやレポート等の結果を各クラス担当者が確認し、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進WG」において集約して分析とプログラムに対する評価を行い、改善に活用している。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の理解度</p>	<p>本学では教育の質的向上と自己点検・評価のために全学及び各学部等にそれぞれFD(ファカルティ・ディベ ロップメント)委員会が設置されている。共通教育センターFD委員会では各授業科目の評価、改善の提言を 行っており、全学部学生を対象に本教育プログラムの指定科目を含む全科目において授業改善アンケートを 実施している。授業改善アンケートの結果を分析することによって全学部学生の理解度の分析を行っている。 本プログラムの授業評価の分析は、全学情報科目分科会及び「数理・データサイエンス・AI教育プログラム推 進WG」があたり、具体的な授業改善を図る。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨 度</p>	<p>全学部学生に対して行う授業改善アンケートには授業の満足度をはじめ、授業の分かりやすさや受講生自 身が実感する学習成果、さらには自由記述による受講後の感想が調査されている。このアンケートを踏まえた 各授業担当教員による授業改善メモが共通教育センターFD委員会の授業アンケート結果の専用ページにお いて公表されており、後輩等他の学生への推奨につながっている。</p>
<p>全学的な履修者数、履修 率向上に向けた計画の達 成・進捗状況</p>	<p>令和2年度から開始された本教育プログラム科目「情報活用」(全学必修)の前身である「情報科学科目」が平 成8年度に必修化され、これまでに情報教育に対し多くの実績を積んできている。したがって本学全在生(6 年生まで含む)の情報系科目履修率は100%となっている。また、より高度な統計学の内容を扱う「統計学関連 科目」は現在、一部の文系学科を除いて全学部で開講されており理系学部では準必修科目となっている。また 平成4年度からは文系学部も含めた全学部・学科の学生が受講可能となっている。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路, 活躍状況, 企業等の評価	<p>学部卒業者と大学院修了者に対する調査を卒業・修了時および卒業・修了後に実施しており, 卒業・修了生の進路先や活躍状況の把握が可能である。また卒業・修了生の就職先企業に対してもWEBアンケートを行っている。このアンケートには本学出身者に対する「IT知識・専門技能」「情報収集・分析能力」等について問う項目もあり, 本学教育プログラム修了者の企業評価を把握できるようになっている。</p> <p>これらの結果について「数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進WG」において情報を集約し, プログラムの改善に活かすこととしている。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>企業に対して行っている本学学部卒業者と大学院修了者に対するアンケートをもとに, 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進WG」が分析を行うことで産業界からの視点を含めた教育プログラムへの改善を行う。また, このWGが主体となり, 産業界からの本教育プログラムに対する「率直な意見」を把握するためのワークショップを定期的に催すことで, 地域産業界の要請や社会の変化に応える教育プログラムを実現していく。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>授業では実社会における活用事例を多く取り入れている。さらに受講生の世代を反映した事例を取り上げるようにしている。こういった取り組みにより、教育プログラムの受講生に「数理・データサイエンス・AI」が身近な存在であること、また「数理・データサイエンス・AI」は、単なる学問の一分野ではなく、広く社会に求められている「実学」でもあるということを実感できるよう授業運営を行っている。</p> <p>授業で取り上げる事例については、学生による授業改善アンケートにおいて把握し、その内容について評価を実施している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>「数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進WG」が中心となり、教育プログラム受講生による授業評価を基にした授業改善策の作成に取り組み、高い教育効果を備え、かつ魅力ある情報サイエンス教育プログラムを提供できるように、企画・立案を行う。鹿児島大学内外の幅広い部署の意見や他大学の数理データサイエンスAI教育プログラムに関する情報を集約し、「分かりやすさ」の観点から授業設計や教材開発を行っていく。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/educenter/datascience.html>

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)プラス 申請書

① 授業内容

本教育プログラム科目としての「情報活用」は、令和2年度からの開設であるが、その前身である「情報活用」の全学必修化は平成28年から実施されており、本学全在学生(6年制課程を含む)の履修率も100%となっている。現在では文系学部・理系学部を問わず、鹿児島大学共通教育課程で身につけることができる数理情報ジェネリックスキル修得科目として定着している。

さらに、本教育プログラムは、本学工学部から今年度申請の「応用基礎レベル」教育プログラム「数理・データサイエンス・AI 応用基礎力育成プログラム」に対応し、連続的な学習内容を提供するため、連携しながら進められる。また、本学の概算要求で特定分野校として選定された「地方創生に資する応用基礎レベルのAI・数理データサイエンス教育実施/教材開発事業」における専門カリキュラムとも連携していく。

・分かりやすさについて

クラウド型学習支援システム「manaba」のミニテストやアンケート機能により、受講生の習熟度を測れることから、即座に授業の“わかりやすさ”へ反映させられる。また受講生からの質問等についても、時間と場所に縛られずに教員とのコミュニケーションが可能であり、授業に関する疑問点を残させない仕組みが整っている。さらに「数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進ワーキンググループ」による共通ビデオコンテンツも多数用意しており、「manaba」を通じて配布されている。

・学生の習熟度や専門性を踏まえた学習内容について

教育プログラム科目「情報活用」の授業クラスは各部局の専任教員により行われており、全学の確固たる協力体制の下で取り組まれている。授業では、各部局で必要となるスキルを身に着ける授業回が設けられており、すぐに“役立つ”授業内容となっている。すべての授業クラスは、PC端末室で行われている。1人に1台のPCが割り当てられ、“使いながら学ぶ”体制となっている。また令和3年度より、鹿児島大学とマイクロソフト社の間で包括的契約が結ばれ、学生個人のWindows PC や Mac PC でマイクロソフト社の豊富なアプリケーション群が使用できるようになった。これにより学生が授業で学んだ内容を様々な場面で実践することが可能となった。

・学習意欲が高まる内容について

授業内容では身近な事例をあげ、受講生の興味を引き出している。情報セキュリティの回では本学 情報基盤統括センターが学内で確認している事例についてビデオコンテンツで紹介し、「他人事ではない」という実感を受講生に持たせて注意を促している。

・認定事業を活用した教育プログラムコンテンツへのフィードバックについて

本学工学部は令和3年度に文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育の全国展開の推進」事業において、特定分野校(理工農学分野)に指定された。事業内容は「地方創生に資する応用基礎レベルのAI・数理データサイエンス教育実施/教材開発事業」であり、この事業を通して得られる専門的知見とデータを本教育プログラムに落とし込み、リテラシーレベル授業コンテンツの開発に役立てる。

② 学生への学習支援

本教育プログラムでは以下のような学習支援体制を整えている。

・学習支援システムの構築について

本学では、学習支援システムとして「manaba」を全学的に運用している。「manaba」の出席確認機能(「respon」)により教育プログラム受講生の受講・就学状況を把握することができる。また、ミニテストや授業アンケート機能により、理解度・習熟度を確認できる。

個々の受講生は、「manaba」のポートフォリオ機能により、学習計画や提出したレポートをはじめとする学習成果を卒業時まで保持することが可能で、自身の学習における成長を目に見える形で振り返ることができ、学生の学びを促している。学生への「manaba」の利用方法は、教育プログラム科目「情報活用」や各部局の初年次ガイダンスなどで教えている。

一方、授業担当教員に対しても、「manaba」使用講習会を実施しており、授業への利用アイデアについても提案している。

さらに、「情報活用」科目では授業担当の教員、及び科目を統括する「全学情報科目分科会」の教員をメンバー(65人)とする「manaba」コースも設定し、授業運営に関わる意見交換の場としても利用している。

・実践的な授業内容におけるTA補助について

本教育プログラム科目「情報活用」では全37クラスで60名のTAを配置している(令和3年度)。特にコンピュータを実際に操作するような実践的授業回では、TAが担当教員とともに直接的な操作指導や質問への回答といった主体的役割を果たしている。

・実践的な学習環境について

鹿児島大学は令和3年度にマイクロソフト社と包括的契約を結び、学生や教員が費用負担することなく各自のパソコンにマイクロソフト社の豊富なアプリケーションをインストールすることができるようになった。これにより学生は教育プログラムで習得したスキルをプライベートな場でも実践することが可能で、早い段階での技能の定着を支援できる。

・インターネットによる学習環境について

本教育プログラム科目「情報活用」をはじめとする本学の科目群はクラウド型学習支援システムの活用など、インターネット環境が必須となっている。本学では学内Wi-Fi環境(edurome)の整備が完了している。「情報活用」の運営母体である本学共通教育センターの講義棟では講義室や学生が空き時間などに自主学習を行う学習交流スペース等のWi-Fiカバー率は100%である。

③ その他の取組(地域連携, 産業界との連携, 海外の大学等との連携等)

鹿児島大学には, 地域及び産業界に関わるセンターが複数設置されている。これらのセンターが発信・公表する情報を通して地域・産業界との連携を深めるとともに, そこで培われた情報や数値データを, 本教育プログラムの教育コンテンツ制作に活用し, 本学独自のキーワード「離島・島嶼」, 「防災」などを題材として, オリジナリティーのある教育プログラムへと進化させていく。関連する各センターは, 以下の① ② ③のとおり。

①. 南九州・南西諸島域イノベーションセンター

産学・地域連携活動の推進及び地域社会の発展に資することを目的としている。

②. 国際島嶼教育研究センター

鹿児島からアジア・太平洋に広がる島嶼域を対象に様々な問題について学術的調査研究を行い, 国際交流を図るとともに国際社会に貢献する人材を育成することを目的としている。

③. 地域防災教育研究センター

防災に関する教育研究を総合的に展開するとともに, 地域と連携して地域防災体制の向上に貢献することを目的としている。

・高度専門人材育成事業を活用した教育プログラムとの連携

本学農学部・共同獣医学部は令和3年度に文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」に採択された。事業名は「南九州の地域産業をけん引する次世代農獣医技術者養成のDX教育改革」である。既存の産学連携体制と, この事業の遂行で得られた成果, 知見・データを教育プログラム科目「情報活用」の教材コンテンツとして活用する。

・地域, 産業界との共同イベント等による連携活動について

本学では, 卒業・修了生の就職先企業に対してWEBアンケートを行っている。このアンケートに対し, 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進ワーキンググループ」が主体となり分析を行っていく。また地域, 産業界との確固たる連携関係を築きつつ, ワークショップ・講演会等を企画する。こういった取り組みを基にして, 地域社会におけるSociety 5.0の実現に向け, 社会の要請や変化に応える教育プログラムを構築していく。

開設年度		開講部局	
2021		共通教育	
科目名			
情報活用			
英語科目名			
Information Use			
前後期	開講区分	科目形態	単位数
前期	毎週	講義	2
(28年度以降入学生)中分類		(28年度以降入学生)小分類	
初年次教育科目		情報活用	
(27年度以前入学生)中分類		(27年度以前入学生)小分類	
e. コミュニケーション力		20. 情報・通信を学ぶ	
受講学部学科			
工2(情報・生体)			
担当教員		担当教員所属	
大野裕史		共通教育センター	
連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)	
099-285-8448		ohno@ibe.kagoshima-u.ac.jp	
オフィスアワー (授業時間外の対応)			
【オフィスアワー】授業中に教員から連絡します。			
【メール・HP】ohno@ibe.kagoshima-u.ac.jp			
【授業後】授業後または個別にアポイントメントも可能です。			
共同担当教員			
淵田孝康			
アクティブ・ラーニング			
1. グループワーク; 4. プレゼンテーション; 5. 学習の振り返り; 6. その他;			
アクティブ・ラーニング(「その他」の内容)			
PCを用いた演習			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中10回			
理念 重要視する教育目標			
2. 情報収集・精査・統合 1) 必要な情報を収集できる			
理念 教育目標			
2. 情報収集・精査・統合 2) 集めた情報を信頼性や必要性に基づき精査できる			
理念 教育目標			
2. 情報収集・精査・統合 3) 個別の知識を統合して課題の解決策を提案できる			
理念 教育目標			
授業概要(目的・内容・方法)			
<p>パーソナルコンピュータの操作、情報セキュリティに関する知識、そしてインターネットを利用した情報の発信・収集といったコンピュータおよび通信ネットワークを活用する能力は、高度情報化社会の現代に生きる我々にとって身に付けるべき重要かつ基本的な技能・知識の一つである。本授業では、このようなコンピュータおよび通信ネットワーク並びに情報セキュリティに関する基礎知識を修得し、加えてAI社会に対応するために必要な数理データサイエンスの基礎知識を習得することを目的とする。</p>			
学習目標			
(1)コンピュータの概要を理解し、タッチタイピングをはじめとする基本操作を修得する。			
(2)情報倫理および情報セキュリティに関して十分な知識を修得する。			
(3)ネットワーク上のマナーを身につけ、電子メールによる情報交換やWWWを利用した情報収集・検索ができる能力を修得する。			
(4)ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本機能を学習し、効果的に使用できる能力を修得する。			
(5)数理データサイエンスの基礎知識を修得する。			
(6)獲得知識を総合的に発揮し、課題解決に対応できる能力を修得する。			

授業計画・試験の有無（16回[初修語は31回]に分け、回数、授業内容、自学自習等）

1. 講義指針、コンピュータの基本操作・タイピング演習、日本語入力
2. 電子メールによる情報交換、WWWを利用した情報収集
3. 情報倫理とセキュリティ
4. 文書作成の基礎（Microsoft Word）
5. 文書作成の応用
6. 文書作成の活用
7. プレゼンテーションの基礎（Microsoft PowerPoint）
8. プレゼンテーションの応用（Microsoft PowerPoint）
9. プレゼンテーションの活用
10. 表計算の基礎（Microsoft Excel）
11. 表計算の応用（Microsoft Excel）
12. 表計算の活用
13. 数理・データサイエンスの役割、データの取得と管理
14. ヒストグラム・箱ひげ図・平均値と分散、信頼区間
15. 散布図と相関係数、回帰直線
16. 期末試験は行わない

授業外学習(予習・復習)

担当教員の指示および提示される講義資料による予習を各回2時間、
 担当教員の指示および課題による復習を各回2時間、
 合計60時間の授業時間外学習を行う。

受講要件	成績の評価基準
とくになし。	課題（小テスト等も含む）の総合評価（100％）で評価する。 ただし、総合評価には2/3以上の出席および2/3以上の課題提出を必要とする。
教科書	参考書
学術図書出版社「データサイエンス入門」編：竹村彰通、他	特になし。
地域志向科目の区分（平成27年度入学生用）	地域志向科目の区分（平成28年度以降入学生用）
該当なし	該当なし

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

SDGs

その他

特になし

開設年度		開講部局	
2021		共通教育	
科目名			
情報リテラシー演習			
英語科目名			
Computer literacy for veterinary students			
前後期	開講区分	科目形態	単位数
前期	毎週	演習	1
(28年度以降入学生)中分類		(28年度以降入学生)小分類	
初年次教育科目		情報活用	
(27年度以前入学生)中分類		(27年度以前入学生)小分類	
受講学部学科			
共同獣医学部			
担当教員		担当教員所属	
白石光也		共同獣医学部	
連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)	
099-285-8717		shira-m@vet.kagoshima-u.ac.jp	
オフィスアワー (授業時間外の対応)			
・随時 (要アポイントメント)			
・メール			
共同担当教員			
小澤真、内藤清惟、辻尾祐志			
アクティブ・ラーニング			
4. プレゼンテーション; 5. 学習の振り返り;			
アクティブ・ラーニング (「その他」の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
4			
理念 重要視する教育目標			
2. 情報収集・精査・統合 1) 必要な情報を収集できる			
理念 教育目標			
2. 情報収集・精査・統合 2) 集めた情報を信頼性や必要性に基づき精査できる			
理念 教育目標			
2. 情報収集・精査・統合 3) 個別の知識を統合して課題の解決策を提案できる			
理念 教育目標			
授業概要 (目的・内容・方法)			
<p>「情報リテラシー」とは、情報 (information) とリテラシー (Literacy (識字) 能力) からなる成語で、メディア・リテラシー (情報を評価し識別する能力) とコンピューター・リテラシーに大別されます。この授業の目的は、コンピューター・リテラシー (コンピュータを操作し必要な情報を得る能力) を修得することです。この能力は、大学生活のみならず、獣医師が活躍する様々な職場でも求められています。そこで、パソコンで汎用されるソフトウェアである、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、電子メール、Webブラウザ等を利用し、基礎的な情報活用法 (書類作成、データ処理、情報交換、情報検索・収集) について、演習課題をこなしながら大学での教育・研究に必要なレベルまでの能力アップを目指します。</p>			
学習目標			
(1) コンピュータの概要を理解し、基本操作を習得する。			
(2) インターネット上のルールやマナーを認識した上で、情報交換 (電子メール) や情報検索・収集を行う。			
(3) ワープロ、表計算ソフトの基本機能を理解し、効果的に使用する。			
(4) プレゼンテーションのための情報処理能力を涵養し、発表演習を行う。			
(5) 情報セキュリティと数理データサイエンスについて理解する。			
授業計画・試験の有無 (16回 [初修語は31回] に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
第1回 情報端末の操作方法、情報セキュリティ教育・情報倫理教育 (1)			

ログインの方法、自分のIDやパスワード保持の重要性

第2回 情報セキュリティ教育・情報倫理教育（2）
SNS（ソーシャルネットワークシステム）概論、書き込みのマナー等

第3回 情報セキュリティ教育・情報倫理教育（3）
電子メールのマナーとセキュリティ

第4回 数理データサイエンス（1）
各種エディターを用いたキーボードの操作方法演習

第5回 数理データサイエンス（2）
作表ソフトの基本操作方法の演習、作表ソフト関数の扱い方

第6回 数理データサイエンス（3）
数値データを用いた各種グラフの作成演習、散布図作成と相関分析

第7回 プレゼンテーション演習
プレゼンテーションソフトを用いた発表原稿作成

第8回 発表演習

授業外学習(予習・復習)

【予習】事前に配布される資料を読み、要点や疑問点をまとめておく。

【復習】授業で学んだ内容を振り返り、要点を整理する。

受講要件	成績の評価基準
なし。	レポート、発表、受講態度。 筆記試験は行わない。
教科書	参考書
なし（資料はG1exaで配付する。）	特になし
地域志向科目の区分（平成27年度入学生用）	地域志向科目の区分（平成28年度以降入学生用）
該当なし	該当なし
実務経験のある教員による実践的授業	
該当しない	
SDGs	
その他	
特になし	

開設年度		開講部局	
2021		共通教育	
科目名			
情報セキュリティ・モラル			
英語科目名			
Information Security and Morals			
前後期	開講区分	科目形態	単位数
前期	毎週	講義	1
(28年度以降入学生)中分類		(28年度以降入学生)小分類	
初年次教育科目		情報活用	
(27年度以前入学生)中分類		(27年度以前入学生)小分類	
受講学部学科			
共同獣医学部獣医学科			
担当教員		担当教員所属	
齊藤 智也		山口大学	
連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)	
オフィスアワー (授業時間外の対応)			
-			
共同担当教員			
アクティブ・ラーニング			
1. グループワーク; 2. ディベート; 3. フィールドワーク; 4. プレゼンテーション; アクティブ・ラーニング(「その他」の内容)			
-			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
8回中8回			
理念 重要視する教育目標			
2. 情報収集・精査・統合 1) 必要な情報を収集できる			
理念 教育目標			
2. 情報収集・精査・統合 2) 集めた情報を信頼性や必要性に基づき精査できる			
理念 教育目標			
2. 情報収集・精査・統合 3) 個別の知識を統合して課題の解決策を提案できる			
理念 教育目標			
授業概要(目的・内容・方法)			
この講義では、データサイエンスについての理解を深めるため、数理・情報系の研究者によるデータから新しい知識や事実を得る方法論の解説、情報系企業の技術者やマネージャーによる事業へのデータサイエンス活用事例の紹介、学生の専攻分野を専門とする教員によるデータに基づく研究事例の解説を行う。さらに、情報セキュリティ、情報倫理や法規など、超スマート社会に適應するために必要な事項を説明する			
学習目標			
データサイエンスが社会の発展に役立つこと認識し、その基本的な原理を知る。また、情報セキュリティや情報倫理、法規を学ぶ重要性を知り、超スマート社会に適應するために必要な作法を会得する。			
授業計画・試験の有無(16回[初修語は31回]に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
データサイエンスについての理解を深めるため、この分野を研究する教員や情報産業に従事する技術者等による講義を行う。また、超スマート社会に適應して生活していくために必要な作法やルールについて学習する。			
以下の表の第2週、第6週、第7週に示した授業は、クラスによって実施される週が異なる。従って、以下の表の順番で授業が行われるとは限らないことに注意。			
第1週 オリエンテーション ・この授業のオリエンテーション			

第2週 情報の流通とデータサイエンス

- ・コンピュータと情報処理
- ・インターネットによるデータの流通
- ・データの蓄積とデータサイエンス

第3週 データサイエンスの基本技術

- ・データを処理し、新しい知見を得るための基本技術を平易に解説する。

第4週 情報セキュリティ

- ・インターネットに潜む危険
- ・情報セキュリティとCIA
- ・個人レベルの情報セキュリティ対策

第5週 データ・AI利活用の法規と倫理 1

- ・個人のデータと法規
- ・統計法

第6週 データ・AI利活用の法規と倫理 2

- ・データ収集・利活用と倫理
- ・データサイエンスと様々なバイアス
- ・その他法規

第7週 企業でのデータサイエンス活用例

・企業ではどのようなデータを収集・分析することによって事業に活用しているのかについて、企業の方に講義をしていただく。

第8週 専攻分野におけるデータ活用研究例

- ・学生の所属学部、所属学科等の教員による研究事例の紹介

授業外学習(予習・復習)

宿題

受講要件	成績の評価基準
-	授業内外のレポートによって成績評価を行う。 欠席は1回まで認めるが、2回以上欠席した場合は原則として単位を認定しない。 定期試験(中間・期末試験) 70% 宿題・授業外レポート 20% 授業態度・授業への参加度 10% 出席 欠格条件
教科書	参考書
-	-
地域志向科目の区分(平成27年度入学生用)	地域志向科目の区分(平成28年度以降入学生用)
実務経験のある教員による実践的授業	
-	
SDGs	
その他	
-	

令和3年度 入学生

共通教育 履修案内

令和3年4月



鹿児島大学共通教育センター

令和3年度入学生 共通教育科目卒業要件単位数(一般学生)(規則第7条関係)

科目枠組		必修科目									選択必修科目							必修科目単位数小計	選択科目単位数小計	合計単位数
		初年次教育科目						グローバル教育科目			教養教育科目									
		初年次セミナーⅠ	初年次セミナーⅡ	大学と地域	体育・健康		情報活用	英語	異文化理解	教養基礎科目			教養活用科目		自由選択科目					
					理論	実習				分野 人文・社会科学	自然科学分野	統合Ⅰ (課題発見)	統合Ⅱ (課題解決)							
学部学科		初修外国語	選択科目	実験科目	選択科目	入門基礎教育														
法文	法経社会学科	2	2	2	1	1	2	4	2	16	4	2	-	4	-	4	-	14	30	
	人文学科	2	2	2	1	1	2	4	2	16	4	2	-	4	-	4	-	14	30	
教育	学校教育教員養成課程	初等教育コース	2	2	2	1	1	2	5	2	17	2	4	-	4	-	4	-	14	31
		中等教育コース(英語以外)	2	2	2	1	1	2	5	2	17	2	4	-	4	-	4	-	14	31
		中等教育コース(英語)	2	2	2	1	1	2	5	2	17	4	2	-	4	-	4	-	14	31
		特別支援教育コース	2	2	2	1	1	2	5	2	17	2	4	-	4	-	4	-	14	31
理	理学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	-	4	(4) (注10)	4	-	4	-	12	30	
医	医学科	2	2	2	1	1	2	4	2	16	-	4	-	2	-	4	-	10	26	
	保健学科(看護)	2	2	2	1	1	2	4	2	16	-	6	-	4	-	4	-	14	30	
	保健学科(理学療法)	2	2	2	1	1	2	4	2	16	-	6	-	2	4 (注1)	4	-	16	32	
	保健学科(作業療法)	2	2	2	1	1	2	4	2	16	-	6	-	4	2 (注2)	4	-	16	32	
歯	歯学科	2	2	2	1	1	2	4	2	16	2 (注3)	2	-	4	-	4	-	12	28	
工	先進工学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	-	4	-	2	2 (注4)	4	-	12	30	
	建築学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	-	4	-	2	2 (注4)	4	-	12	30	
農	農業生産科学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	-	4	(4) (注10)	4	4 (注5)	4	2 (注6)	18	36	
	食料生命科学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	-	4	(4) (注10)	4	4 (注5)	4	2 (注6)	18	36	
	農林環境科学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	-	4	(4) (注10)	4	4 (注5)	4	2 (注6)	18	36	
	国際食料資源学特別コース	農学系サブ	2	2	2	1	1	2	5	2	17	-	4	-	2	6 (注7)	4	-	16	33
水産系サブ		2	2	2	1	1	2	5	2	17	-	4	-	2	6 (注7)	4	-	16	33	
水産	水産学科	2	2	2	1	1	2	5	2	17	-	4	(4) (注10)	-	10 (注8)	4	-	18	35	
共同獣医	獣医学科	2	2	2	1	1	2	8	2	20	-	2 (注9)	-	2	-	4	-	8	28	

- (注1) 基礎統計学入門(2単位)必修、基礎物理学入門(2単位)、基礎生物学入門(2単位)から1科目選択。ただし、物理学及び生物学に関しては受験時に選択しなかった科目を受講することが望ましい。
- (注2) 基礎統計学入門、基礎数学入門、基礎物理学入門、基礎化学入門A、基礎化学入門B、基礎生物学入門の6科目から1科目選択
- (注3) 初修外国語は独語又は仏語を修得する。
- (注4) 基礎統計学入門(2単位)必修
- (注5) 基礎統計学入門、基礎数学入門、基礎物理学入門、基礎化学入門A、基礎化学入門B、基礎生物学入門の6科目から2科目選択
- (注6) 農学部における教養教育科目(自由選択科目)の単位は、教養教育科目(教養基礎科目)(ただし、初修外国語及び実験科目を除く。)及び教養教育科目(教養活用科目)の所定の単位を超えて修得した単位が該当する。
- (注7) 基礎生物学入門、基礎化学入門A、基礎統計学入門を必修
- (注8) 基礎生物学入門、基礎化学入門A、基礎物理学入門、基礎数学入門、基礎統計学入門を必修
- (注9) 共同獣医学部は導入系科目として、生命倫理学、コミュニケーション論を必修
- (注10) 実験科目(4単位)については、共通教育科目の卒業要件単位数に含まれないが、中学校教諭一種免許状(理科)、高等学校教諭一種免許状(理科)の免許状取得に必要な科目として、基礎物理学実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)及び基礎地学実験(1単位)を理学部、農学部及び水産学部の学生を対象に開講する。(p.26参照)

〔5〕 情報活用

1 内容

「情報活用」は、情報化社会およびグローバル化が進展する中で、重要性を増しているコンピュータやインターネットについての基礎的知識や技能、数理・データサイエンスについての初歩的知識を身に付け、本学の情報ネットワークやコンピュータの教育環境を有効に活用する能力を修得することを目指す科目です。

各学生の所属学部・学科等の教員が主に担当しますが、パソコンの機能を十分に活用するための基本的な知識・技術、プレゼンテーション技能、インターネットの適切な利用方法、情報セキュリティ及び数理データサイエンスに関する初歩的な技術などについて学修します。専用のパソコン教室（主に共通教育棟1号館2、3階の情報教育教室）において、パソコンを一人一台ずつ利用し、講義と演習（パソコンの操作）を組合わせた授業形態となります。学修効果の向上のために、必要に応じて大学院生のティーチング・アシスタント（TA）が講義時間中に在室し、受講学生の学修を支援します。また、入学生全員に配付される鹿児島大学IDにより、本学在籍期間中、パソコン教室のパソコンが自由に利用できます。利用の方法や利用上の注意などは、「XI 学生生活、〔2〕 諸願・届及び注意事項、5 共通教育棟の施設の利用（パソコンの利用など）」（p. 57参照）を参照してください。新型コロナウイルス感染症の流行の状況によっては、授業形態がパソコン教室利用から配信授業になる可能性もあります。

2 単位の取り方

「情報活用」は1期（1年前期）に開講される必修科目です。卒業するためには必ず修得しなければならない重要な科目であり、単位数は2単位です。各学部の学科・専修等の単位でクラスが編成され、1期の授業時間割に記載されていますので、時間割に記載されている曜日・時限の「情報活用」を履修してください。なお、教員免許状取得希望者は、「情報機器の操作（2単位）」を必ず修得しなければなりません、「情報活用」がこの科目に該当します。

○鹿児島大学共通教育センター運営委員会規則

平成 29 年 3 月 16 日
総機第 3 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鹿児島大学共通教育センター規則（平成 29 年総機第 2 号）第 9 条第 2 項の規定に基づき、鹿児島大学共通教育センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 共通教育センター長
- (2) 共通教育センター副センター長
- (3) 部門長
- (4) 副部門長
- (5) 専任教員

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 共通教育センター（以下「センター」という。）の運営に関する事。
- (2) 共通教育カリキュラムの編成に関する事。
- (3) 共通教育の授業実施に関する事。
- (4) 共通教育の単位認定に関する事。
- (5) 共通教育の自己点検・評価に関する事。
- (6) センターの規則の制定改廃に関する事。
- (7) センターの予算・決算に関する事。
- (8) センターの施設管理に関する事。
- (9) センターのファカルティ・ディベロップメントに関する事。
- (10) 法人評価及び認証評価等に関する事。
- (11) 非常勤講師等の雇用に関する事。
- (12) 科目等履修生の受入れ審査に関する事。
- (13) 特別聴講学生の受入れに関する事。
- (14) 大学教育の全学的な連絡調整に関する事。
- (15) その他センターの運営及び業務等に関する事。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副センター長がその職務を代行する。

(委員会)

第 5 条 委員会は、定例委員会及び臨時委員会とする。

- 2 定例委員会は、原則として月 1 回開催する。
- 3 臨時委員会は、委員長が必要と認めたときに開催する。

(議事)

第 6 条 委員会は、委員の過半数の出席により成立し、議事は出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 7 条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(教育部門会議)

第8条 委員会にセンターの業務を円滑に処理するため、次に掲げる会議を置く。

- (1) 初年次教育・教養教育部門会議
- (2) 体育・健康教育部門会議
- (3) 外国語教育部門会議
- 2 前項各号の教育部門会議には、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 部門長
 - (2) 副部門長
 - (3) 各教育部門専任教員
 - (4) その他センター長が必要と認める者 若干名
- 3 教育部門会議の審議事項は第3条に準じる。
- 4 各部門長は、各教育部門会議を招集し、その議長となる。
- 5 議長に事故があるときは、副部門長がその職務を代行する。
- 6 第6条及び第7条の規定は、教育部門会議において準用する。
(科目分科会)

第9条 委員会に共通教育科目及び学芸員資格科目の企画・立案・実施を円滑に処理するため、次に掲げる分科会を置く。

- (1) 教養科目分科会
- (2) 実験等科目分科会
- (3) 情報科目分科会
- (4) 日本語・日本事情科目分科会
- (5) 学芸員資格科目分科会
- 2 教養科目分科会には、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) センターから選出された者 2名
 - (2) 各学部の教授、准教授又は講師のうちから選出された者 各1名
 - (3) その他センター長が必要と認める者 若干名
- 3 実験等科目分科会には、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) センターから選出された者 4名
 - (2) 各学部の教授、准教授又は講師のうちから選出された者 各1名
ただし、法文学部、教育学部及び共同獣医学部は除く。
 - (3) その他センター長が必要と認める者 若干名
- 4 情報科目分科会には、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) センターから選出された者 1名
 - (2) 情報基盤統括センターから選出された者 1名
 - (3) 各学部の教授、准教授又は講師のうちから選出された者 各1名
 - (4) その他センター長が必要と認める者 若干名
- 5 日本語・日本事情科目分科会には、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) センターから選出された者 1名
 - (2) グローバルセンターから選出された者 1名
 - (3) 各学部の教授、准教授又は講師のうちから選出された者 各1名
 - (4) その他センター長が必要と認める者 若干名
- 6 学芸員資格科目分科会には、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 総合研究博物館から選出された者 1名
 - (2) 学芸員資格の取得が可能な学部の教授、准教授、講師又は助教のうちから選出された者 各1名
 - (3) その他センター長が必要と認める者 若干名
- 7 科目分科会は共通教育科目または学芸員資格科目における具体的事項の審議を行う。
- 8 あらかじめ委員会の承認を得た事項については、科目分科会の議決をもって委員会の議決があったものとみなすことができる。

- 9 科目分科会に、それぞれ分科会長を置き、委員の互選により定める。
- 10 分科会長は、各分科会を招集し、その議長となる。
- 11 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
- 12 第2項から第6項の各号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 13 第6条及び第7条の規定は、各科目分科会について準用する。
(小委員会)
- 第10条 委員会に、必要に応じて小委員会を置くことができる。
- 2 小委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。
(事務)
- 第11条 委員会に関する事務は、学生部共通教育課において処理する。
(雑則)
- 第12条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則
この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、令和2年4月2日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

附 則
この規則は、令和2年7月2日から施行する。

附 則
この規則は、令和3年5月6日から施行する。

附 則
この規則は、令和3年6月3日から施行する。

附 則
この規則は、令和4年4月1日から施行する。

○鹿児島大学共通教育センター運営委員会規則

平成 29 年 3 月 16 日
総機第 3 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鹿児島大学共通教育センター規則（平成 29 年総機第 2 号）第 9 条第 2 項の規定に基づき、鹿児島大学共通教育センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 共通教育センター長
- (2) 共通教育センター副センター長
- (3) 部門長
- (4) 副部門長
- (5) 専任教員

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 共通教育センター（以下「センター」という。）の運営に関する事。
- (2) 共通教育カリキュラムの編成に関する事。
- (3) 共通教育の授業実施に関する事。
- (4) 共通教育の単位認定に関する事。
- (5) 共通教育の自己点検・評価に関する事。
- (6) センターの規則の制定改廃に関する事。
- (7) センターの予算・決算に関する事。
- (8) センターの施設管理に関する事。
- (9) センターのファカルティ・ディベロップメントに関する事。
- (10) 法人評価及び認証評価等に関する事。
- (11) 非常勤講師等の雇用に関する事。
- (12) 科目等履修生の受入れ審査に関する事。
- (13) 特別聴講学生の受入れに関する事。
- (14) 大学教育の全学的な連絡調整に関する事。
- (15) その他センターの運営及び業務等に関する事。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副センター長がその職務を代行する。

(委員会)

第 5 条 委員会は、定例委員会及び臨時委員会とする。

- 2 定例委員会は、原則として月 1 回開催する。
- 3 臨時委員会は、委員長が必要と認めたときに開催する。

(議事)

第 6 条 委員会は、委員の過半数の出席により成立し、議事は出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 7 条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(教育部門会議)

第8条 委員会にセンターの業務を円滑に処理するため、次に掲げる会議を置く。

- (1) 初年次教育・教養教育部門会議
- (2) 体育・健康教育部門会議
- (3) 外国語教育部門会議
- 2 前項各号の教育部門会議には、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 部門長
 - (2) 副部門長
 - (3) 各教育部門専任教員
 - (4) その他センター長が必要と認める者 若干名
- 3 教育部門会議の審議事項は第3条に準じる。
- 4 各部門長は、各教育部門会議を招集し、その議長となる。
- 5 議長に事故があるときは、副部門長がその職務を代行する。
- 6 第6条及び第7条の規定は、教育部門会議において準用する。
(科目分科会)

第9条 委員会に共通教育科目及び学芸員資格科目の企画・立案・実施を円滑に処理するため、次に掲げる分科会を置く。

- (1) 教養科目分科会
- (2) 実験等科目分科会
- (3) **情報科目分科会**
- (4) 日本語・日本事情科目分科会
- (5) 学芸員資格科目分科会
- 2 教養科目分科会には、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) センターから選出された者 2名
 - (2) 各学部の教授、准教授又は講師のうちから選出された者 各1名
 - (3) その他センター長が必要と認める者 若干名
- 3 実験等科目分科会には、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) センターから選出された者 4名
 - (2) 各学部の教授、准教授又は講師のうちから選出された者 各1名
ただし、法文学部、教育学部及び共同獣医学部は除く。
 - (3) その他センター長が必要と認める者 若干名
- 4 **情報科目分科会**には、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) センターから選出された者 1名
 - (2) 情報基盤統括センターから選出された者 1名
 - (3) 各学部の教授、准教授又は講師のうちから選出された者 各1名
 - (4) その他センター長が必要と認める者 若干名
- 5 日本語・日本事情科目分科会には、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) センターから選出された者 1名
 - (2) グローバルセンターから選出された者 1名
 - (3) 各学部の教授、准教授又は講師のうちから選出された者 各1名
 - (4) その他センター長が必要と認める者 若干名
- 6 学芸員資格科目分科会には、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 総合研究博物館から選出された者 1名
 - (2) 学芸員資格の取得が可能な学部の教授、准教授、講師又は助教のうちから選出された者 各1名
 - (3) その他センター長が必要と認める者 若干名
- 7 科目分科会は共通教育科目または学芸員資格科目における具体的事項の審議を行う。
- 8 あらかじめ委員会の承認を得た事項については、科目分科会の議決をもって委員会の議決があったものとみなすことができる。

- 9 科目分科会に、それぞれ分科会長を置き、委員の互選により定める。
- 10 分科会長は、各分科会を招集し、その議長となる。
- 11 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
- 12 第2項から第6項の各号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 13 第6条及び第7条の規定は、各科目分科会について準用する。
(小委員会)
- 第10条 委員会に、必要に応じて小委員会を置くことができる。
- 2 小委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。
(事務)
- 第11条 委員会に関する事務は、学生部共通教育課において処理する。
(雑則)
- 第12条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則
この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、令和2年4月2日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

附 則
この規則は、令和2年7月2日から施行する。

附 則
この規則は、令和3年5月6日から施行する。

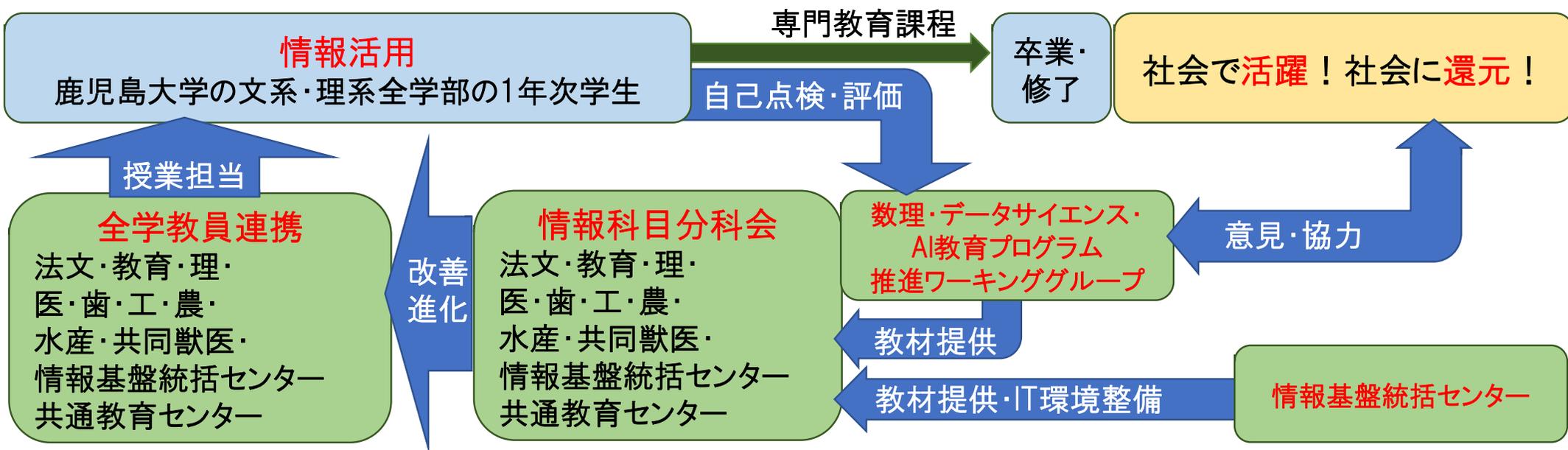
附 則
この規則は、令和3年6月3日から施行する。

附 則
この規則は、令和4年4月1日から施行する。

文理横断・数理データサイエンスAI 教育導入プログラム 概要



- ・教育プログラム科目:「**情報活用**」1年前期必修(2単位) 全クラスPC端末室で開講. 実践しながら学ぶ!
- ・修了要件:「**情報活用**」を修得すること.
- ・本教育プログラムで身につけることができる能力:
 - (1)数理データサイエンスAIの技術によって, 社会および日常生活が大きく変化していることを理解し, そこから生み出される新たな価値を説明できる能力.
 - (2)膨大なデータの集積(ビックデータ)によって新たな雇用や産業分野が生じている現状を説明できる能力.
 - (3)データの特徴を見出し, そこにある事象・背景・意味合いを説明できるとともに, その適切な分析手法を判断できる能力.



地域をはじめ、社会で**活躍**！社会に**還元**！
人材を継続的に輩出

教育プログラム科目：「**情報活用**」のこれまでとこれから

平成8年
情報科学科目
の全学必修化

平成23年
情報セキュリティ教育
の導入

平成28年
情報活用
開始

平成30年
クラウド型教育支援
サービス「manaba」
本格運用開始

Society 5.0の実現に向け、地域・社会の
要請や変化に応える教育プログラムへ！

平成29年
情報科目分科会発足

令和2年
教育プログラム科目：
情報活用
開始

令和3年
数理・データサイエンス・AI
教育プログラム推進
ワーキンググループ発足

教育プログラム科目：「**情報活用**」を取り巻く鹿児島大学の支援

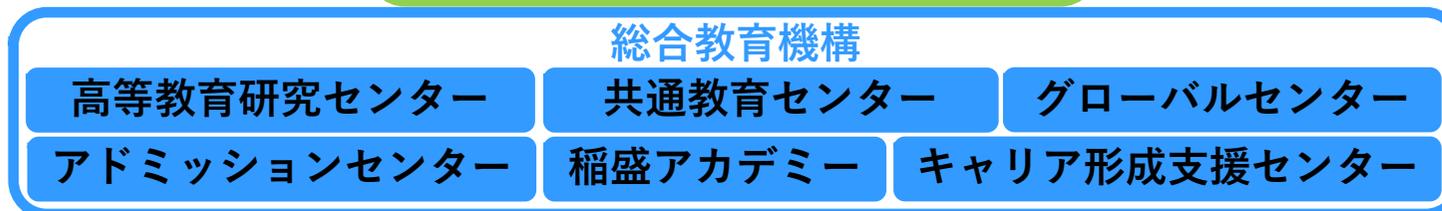
- ・ 全37のクラスで60名のTAを配置（令和3年度）
- ・ 授業はすべてPC端末室で受講
- ・ クラウド型教育支援システム「manaba」による学習支援
- ・ 学内無線LAN (eduroam) 接続利用サービス
(共通教育センター講義棟等における、講義室・交流スペースでのカバー率は100%)
- ・ 学生個人のPC (Windows, Mac) にoffice365など、無料でインストール*

(* 鹿児島大学とMicrosoft社との包括的契約による)

教育プログラム科目:

「**情報活用**」

授業コンテンツに関わる
 鹿児島大学の**全学環境**



情報・データ

学内共同教育研究施設

南九州の地域産業
 をけん引する次世
 代農獣医技術者養
 成のDX教育改革

地方創生に資する
 応用基礎レベルの
 AI・数理データサ
 イエンス教育実施
 /教材開発事業

情報活用

鹿児島大学の文系・理系
 全学部の1年次学生必修科目

地域防災教育
 研究センター

国際島嶼教育
 研究センター

南九州・南西諸島域
 イノベーションセンター

授業コンテンツに
 活用！